

市議会 だより

令和4年 臨時会(7/28) 報告
9月定例会

鶴ヶ島市議会

直接、議員が足を運び、声をかけて地域に入っていたら



鶴ヶ島市赤十字奉仕団にインタビュー

目次

特集 令和3年度決算	2
議会報告会2022を開催	6
市の考えを問う 一般質問	7
臨時会(7/28) 報告	15
9月定例会報告	15
委員会審査(条例)	16
委員会審査(補正予算)	16
◆一般会計・特別会計	
市民・団体インタビュー	18

予算・総合計画にもない市長公約の姿

😊：原因は不明ながら人口微増は結果オーライ

😞：議会での議論を経ずしての施設の統廃合計画



長谷川清 議員

コロナ禍で見えてきた各種課題を克服するには

😊：感染対策の徹底 市民センターや学校・体育館等のトイレ改修

😞：市民が財産 しあわせが共感できる施策を推進せよ!!



金泉婦貴子 議員

市民目線、現場目線での事業執行

😊：地域に根差したつるがしま未来の森づくり事業

😞：前例踏襲から脱却するための事業改善意欲



内野嘉広 議員

市民の要望に応えた対策が取られたか

😊：コロナ禍で変化する社会状況に対応した施策

😞：今後の災害対策と高齢社会に対応した施策の充実



松尾孝彦 議員

😊 評価する点

😞 課題とする点

お金の使い道！



近藤英基 議員

※ 監査委員として審査しています。

出会い～結婚～出産のサポート完結!!

😊：多子世帯応援事業が盛り込まれた

😞：子育て世帯（生産年齢人口）の転入促進



杉田恭之 議員

少子高齢化社会のための施策は

😊：健康寿命延伸に向けた様々な健康づくりに取り組んだ

😞：児童・生徒、保護者のための相談体制が十分とは言えない



小林ひとみ 議員

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金

😊：ワンポイントの連続ながら困窮する市民に寄り添う施策

😞：コロナに便乗して実施した事業の後始末に懸念



太田忠芳 議員

放課後子ども総合プランの進捗

😊：校区の指定がない学童保育室2ヶ所の支援

😞：学童保育室を利用していない児童の居場所



大野洋子 議員

基金残高(貯金)が、約14億円増



持田靖明
議員

😊：コロナに対応するための経費に、27.5億円

😞：コロナにより制約を受ける事業もあった

第6次総合計画の2年度目として



藤原健志
議員

😊：コロナ対策で取り組んだ各施策

😞：失われた交流、地域支え合いの仕組み

コロナ後を見据えた財政状況か



高橋剣一
議員

😊：実質単年度収支の大幅な改善は高く評価できる

😞：少子高齢化や公の施設の更新に向けた準備は万全か

様々な課題に向き合う事業



小川茂
議員

😊：小・中学校体育館トイレ改修工事

😞：一本松駅南口開設（事業）が進んでいない



山中基充
議長

※ 議長は議事進行を行うため、本会議の審議及び採決には加わりません。

令和3年度決算特集 議員が評価！

いつまでも健康でいられるまちづくり



石塚節子
議員

😊：未来を創り出す力を育む教育の推進

😞：環境負荷軽減の啓発により地球温暖化対策

長期化するコロナ禍！事業執行の行方



漆畑和司
議員

😊：地域課題解決に向けた一本松地区公園整備事業

😞：公共施設等総合管理計画改訂事業

魅力あるまちづくりの起点



大曾根英明
議員

😊：健康長寿推進への取組

😞：まちの魅力のPR不足

重点戦略の成果



出雲敏太郎
議員

😊：市民の健康づくりを着実に推進

😞：小・中学校タブレット端末の活用に学校間格差

一般 会計

歳入
270億7850万円

歳出
257億8934万円

令和3年度の一般会計決算と特別会計決算（5議案）は、所管の常任委員会に付託され、審査されました。

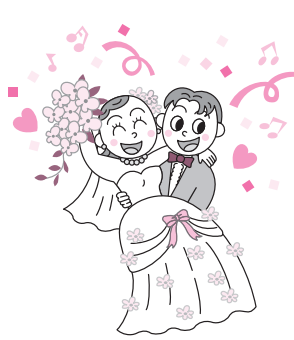
委員会での審査結果は、いずれも「認定すべきもの」で、最終日の本会議での採決の結果、いずれも認定されました。

一 般 会 計

広域サービス推進事業

Q 結婚支援の事業の状況は。

A **政策推進課長** 令和3年度に埼玉県、市町村、企業、民間団体が連携して運営している、「SAITAMA出会いサポートセンター運営協議会」に加入し、広域のかつ総合的な結婚支援を開始した。3年度は1人が成婚している。



戸籍・住民基本台帳管理運営事業

Q マイナンバーカードの交付率向上の取組は。

A **市民課長** 3年度の交付率は41・3割、前年度と比較して1万528件増加した。

取組としては、令和4年1月5日から20日まで、市内の各市

民センターに出張して246人の申請を受け付けるなどの対応を行った。

収納事務電子処理化事業

Q 利用状況と効果について。

A **収納課長** ペイジー口座振替受付サービスでは、利用数が721件で全体の2・9割である。預貯金等照会電子サービスについては、5531件で全体の46・5割にあたる。

効果については、どちらのサービスも大幅な簡略化が進んだ。1か月半程度かかっていた口座振替の開始までが、約2週間に短縮し、最大50日程度かかっていた財産調査などが、3日程度で結果が分かるようになり、業務効率の向上が図られた。

市内進出事業者等支援事業

Q 事業の周知について。

A **産業振興課長** 3年度に特定創業支援事業「つるがしま創業塾」を受けた7人のうち6人が創業した。また、市内進出事業者等に対して、家賃支援が1件で、30万円を支出した。

ホームページ、チラシなどによる周知、商工会、宅地建物取引業協会に協力を依頼するなど、様々な方法で周知を行った。

自治会・地域支え合い協議会活動感染症対策支援事業

Q 自治会における補助金の使途と今後の活動状況は。

A **地域活動推進課長** 工事を伴うものでは、トイレの洋式化や手洗いの自動水栓化のほか、空調、換気扇及び網戸の整備に活用された。備品の整備としては、空気清浄機、消毒液自動噴霧器、サーマルカメラ等の購入である。

会館を利用する環境が整った、健康体操を再開できたなど、本事業に対する感謝と今後の活動への期待の声をいただいた。全ての活動が復活・活発化できたわけではないが、会議やサロン活動などの再開につながったと捉えている。

高齢者実態把握事業

Q 事業の成果は。

A **健康長寿課長** 訪問した4193人のうち、直接、または電話などでお話してきた方は3221人であった。その中で、29人の方が介護認定申請につながり、309人の方は継続的な見守りを今後も行う。また、シルバースポーツやスマホ教室などの新規事業につなげ

ることができた。

多子世帯応援事業

Q 多子世帯応援事業の実績は。

A **こども支援課長** 多子世帯の子育てを応援するために、第2子以降のお子さんを出産した家庭に対して、第2子1万円、第3子以降は56人に5万円支給した。

第2子以降は56人に5万円支給した。



生活困窮者等自立支援事業

Q 就労支援の成果は。

A **福祉政策課長** 生活困窮者17人の方から就労に関する相談があり、就労支援プログラムの作成や就労先の紹介などを行った。その結果、10人の方が就労できた。生活保護を受給中の方については、支援者数16人のうち11人の方が就労できた。

放課後児童対策事業

Q 目的と成果について。

A **こども支援課長** 保護者が労働などで昼間家庭にいない児童に対して適切な遊びと生活の場を与え、児童の健全な育成を図る目的がある。令和3年度は全体で839人の登録があった。小学校区の指定がない、一本松学童クラブ及びクロバークラブでは、自動車、バスでの送迎を行っている特色がある。特に一本松学童クラブでは、保護者のニーズから、終了後に児童を自宅へ送り届けている。



都市計画道路等見直し事業

Q 都市計画道路の見直しの状況は。

A **都市計画課長** 埼玉県には、都市計画変更の見直しについてご指導を受け、埼玉県警察には、交差点などの交通安全対策について協議をしてきた。また、令和4年5月29日には、2回に分けて住民説明会を実施し、ご意見などをいただいた。

いじめ対策・不登校支援等総合推進事業

Q コロナ禍における不登校の子どもの数の推移とスクールカウンセラーの体制は。

A **教育センター所長** 不登校児童は元年度、25人に対して、3年度は50人、不登校生徒は元年度、70人に対して、3年度は93人と増加傾向にある。児童・生徒、保護者への周知が進み、相談件数が増加している。全校にスクールカウンセラーを配置しているが、今後も課題と捉えている。



翻訳機

日本語未習得児童生徒支援事業

Q 外国籍児童・生徒の増加に伴う対応は。

A **学校教育課主席主幹** 元年度の外国籍児童・生徒は46人、3年度は63人と年々増加している。日本語に慣れていない児童・生徒は、翻訳機を使用し、鶴ヶ島市国際交流協会や鶴ヶ島国際友好ふれあい会にご協力をいただき通訳の対応をしている。

脚折のケヤキ保護保全事業

Q 事業内容について。

A **生涯学習スポーツ課長** 白鬚神社が所有する県指定天然記念物の脚折のケヤキを保存するために、ケヤキの支柱の改修及び過去に治療した箇所の再治療の経費の一部を補助した。



脚折のケヤキ

小学校情報教育推進事業 中学校情報教育推進事業

Q 情報教育環境の現状について。

A **学校教育課長** 本格導入から一年以上がたち、多くの教員が積極的に学習用端末を活用しており、教員の苦手意識も徐々になくなってきた。ICT支援員が実施する研修により、授業での活用方法などを学ぶことができ、授業の幅が広がった。コロナ禍で、学習用端末の積極的な活用が進む場面が増えてきている。

特別

会計

国民健康保険

Q コロナ禍での傷病手当金の受給状況は。

A **保険年金課長** 受給件数は、2年度が1件、3年度が18件と伸びている。



介護保険

Q 収入未済額と不納欠損額の実況は。

A **介護保険課長** 収入未済額は、396万3700円、滞納繰越分が212万9435円となっており、3年度の収納率が2年度よりも向上した。不納欠損額は、前年度比90万8412円の減となった。



特別会計決算

国民健康保険

歳入 70億6525万円
歳出 68億6800万円

後期高齢者医療

歳入 8億5598万円
歳出 8億5270万円

介護保険

歳入 47億8194万円
歳出 46億1913万円

一本松土地区画整理事業

歳入 1億5390万円
歳出 1億3676万円

若葉駅西口土地区画整理事業

歳入 3億7205万円
歳出 3億5457万円

市民と議員の懇談会 ―議会報告会 2022―

議会報告会2022テーマ
「夢を語る、子どもたちにやさしいまちづくり」

議員と語り合おう！

日時：8/28(日) 1000~1200

A：メイン会場：鶴ヶ島市役所3階 講堂

B：サテライト会場
①南市民センター
②金沢市民センター
③富士見市民センター

C：オンラインでも参加できます。
市議会やからアクセスください。

主 催：鶴ヶ島市議会
問合せ：鶴ヶ島市議会事務局 TEL049-271-1111 (内線 361)

8月28日、「夢を語る、子どもにやさしいまちづくり」をテーマに議会報告会を開催し、市役所議場と、富士見市民センター、南市民センター、北市民センター及び自宅参加者をオンラインでつなぎました。

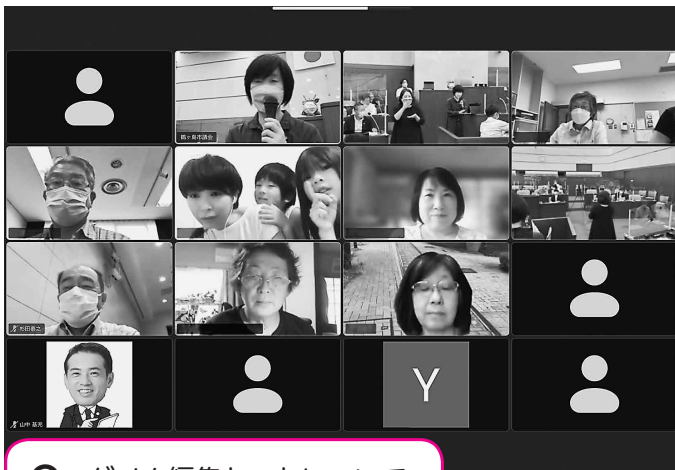
全体で35人の参加があり、たくさんの御意見をいただきました。その中のいくつかを紹介します。

Q：多子世帯に対する補助は？

A：第2子1万円、第3子以降5万円を出生届が受理されたときに一回に限り補助。

Q：子育て世帯への援助は？

A：物価高騰分を給食費、保育所等の食材費の引き上げに繋がらないように助成。



Q：ゲノム編集トマトについて。

Q：スクールカウンセラーの増員は？

Q：子ども家庭庁の課題は？

議会報告会でいただいた意見は、9月定例会の一般質問あるいは、予算決算常任委員会において質疑しています。



Q：通級指導教室を全校に設置してほしい。

Q：学級補助員の増員を。

A：特別支援学級は全学校に設置。通級指導教室も令和4年度に藤小学校に新設するなど取り組んでいる。



誌面の構成上、意見の一部を割愛しています。
ホームページも御覧ください。



ホームページは
こちらから

<https://www.city.tsurugashima.lg.jp/page/page009018.html>

アンケート意見
(一部紹介)

- ・子育て世帯に寄り添ってほしい。明石市のように支援してほしい。子どもが大きくなって戻りたいと思うまちにして欲しい。
- ・滑川町は給食費が無償と聞いた。市民から要望が出たときは情報収集した上で検討してほしい。
- ・コロナの過剰な対策で失ったものが多く、そして大きい。すべきなのは「雇わない」ことではなく、対応できる身体づくりをする事々では。
- ・国からの指示をそのまま実行するのではなく、市民にとって良い結果がもたらすのか考えてほしい。
- ・政策提案ができる議員であってほしい。地域課題の理解を深めてほしい。

Q

生活保障に公の責任を果たせ

お お た 太田
た だ よ し 忠芳 議員



A

ホームページに生活保護の申請は国民の権利と掲載

市の考えを問う 一般質問

9月20日・21日・22日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。

問 貸付を利用した困窮者に対しての相談、働きかけは。また、生活保護のリーフレットを同封するなど、情報提供にも努めており、生活保護の相談件数は2年度の191件から3年度には約1・4倍の262件に増加した。

答 生活保護世帯は、令和2年3月末が557世帯、本年7月末時点が577世帯と増加している。また、特例貸付の2年3月25日から本年7月末までの実績は、緊急小口資金が776件で約1億4千万円、総合支援資金が合計1132件で約6億円の貸付となった。



第2期鶴ヶ島市環境基本計画の冊子

問 特例貸付の返済が来年1月から始まるが、現場の体制整備の検討は。

答 特例貸付の実施主体は県の社会福祉協議会であり、現時点で直ちに影響はないと考えている。また、全国社会福祉協議会が厚生労働大臣に償還困難者への免除要件の拡大や職員体制強化の財政支援を要望している。

問 コロナ危機で停滞した社会を、気候変動を抑えて生態系を守りながら立て直していくことが求められている。

SDGsウェディングケーキモデルに倣えば、社会、経済は、最下層の生物（地球環境）の基盤があつてこそ成立する。対応を迫られる環境課題のスケールは変容している。

答 第3期鶴ヶ島市環境基本計画には、温暖化対策実行計画区域施策編に、地球全体で温室効果ガスを2013年度比46削減の目標を設定する。グリーン購入の推進を位置づけ、環境物品などの調達方針を策定する予定である。

本市では太陽光の活用が有効であると考え、市民と事業者に向けて発電設備などの導入に対する補助制度も検討している。生物多様性は気候変動と大きく関わりがある。今ある緑を保全し、持続可能な社会を目指すSDGsの理念を個々の取組に反映していく。

◎その他の質問 放課後の子どもたちの居場所づくり

Q

環境基本計画に反映すべき課題

おおの 大野
ひろこ 洋子 議員



A

SDGsの理念を個々の取組に反映していく

る上で、その基軸をどこに置き、どのようなロジックを組み立てるのか。

答 第3期鶴ヶ島市環境基本計画には、温暖化対策実行計画区域施策編に、地球全体で温室効果ガスを2013年度比46削減の目標を設定する。グリーン購入の推進を位置づけ、環境物品などの調達方針を策定する予定である。



鶴ヶ島中学校

Q

鶴ヶ島中学校と 西中学校の学校再編

おがわ
小川

しげる
茂 議員



A

良好な教育環境の整備・充実を 図る

問 鶴ヶ島中学校と西中学校の再編の必要性は。

答 鶴ヶ島市小・中学校の再編、再配置計画では、鶴ヶ島市の子どものために、現在の学校教育の水準を将来にわたって維持・向上し、良好な教育環境の整備・充実を図ることを基本方針としている。良好な教育環境を整備・充実するためにも学校再編によって、学校の適正規模を確保することが必要である。

児童・生徒数の将来推計では、30年後には、現在の児童・生徒数の6割程度に減少する見込みである。

今年度、小学校は8校中1校、中学校では5校中3校が適正規模を下回っており、小学校よりも中学校の小規模化が進行して

いる。

中学校は教科担任制であり、小規模化が進むと、県から配置される教員数が減少し、常勤の教員を配置できなくなる教科が生じる。特に西中学校は、最も早く1学年1学級が発生する見込みであることから、最初に、鶴ヶ島中学校との再編に取り組むこととしている。

十分な教育効果を発揮できるよう適正規模を確保し、良好な教育環境の整備・充実を図るため、学校再編に取り組んでいく。

Q

子育て施策の取組と 成果について

すぎた
杉田 やすゆき
恭之 議員



A

施策の取組を市内外に PRしていく

問 総合政策部では。

答 少子高齢化と人口減少に対応するため、魅力ある地域社会をつくり、将来にわたって市の活力を維持することを最重要課題とする。

問 市民生活部では。

答 地域支え合い協議会が実施する放課後や週末の子どもの居

場所づくりの取組を推進する。

問 福祉部では。

答 子ども家庭総合支援拠点を設置し、子育て世代包括支援センターや児童・家庭総合相談窓口との連携により、相談支援体制の強化を図る。ファミリーサポートセンターでは、緊急サポートセンター機能を開始した。

問 健康部では。

答 妊娠から出産、子育てに至るまで、心と体の健康維持・増進の視点から、各種の相談支援体制を推進する。

問 都市整備部では。

答 公園や道路整備などにおいて、子どもや子育て世代にやさしいまちづくりの実現を目指す。

問 教育部では。

答 学び合い学習、外国語教育・ICTを活用した教育の推進、学校と地域の新しい連携体制の構築、学校施設の老朽化対策、学校再編などの取組を進める。



Q 誰もが健康でいられる
まちづくりとは

こばやし
小林ひとみ 議員



A 健康寿命延伸のため介護・
フレイル予防に取り組む

問 健康づくり・食育推進の取組は。

答 地域と連携してラジオ体操などの身近で継続的に実践できる取組を進めている。また、介護予防ボランティアなどの市民ボランティアの養成にも力を入れていく。食育では、講座の開催や食生活改善推進協議会と連携し、調理実習を行っている。

題は。

答 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、人との交流や運動の機会が減少したこととうつ傾向につながっている可能性が分かってきた。このことから認知症予防に加えて社会参加を図るため、家庭用ゲーム機を活用したシルバースポーツの普及に努めている。また、ウォーキングなどに若い世代の参加を



促す取組も拡充した。
問 歯周病が原因で病気になる場合がある。歯周病検診の受診率は。

答 令和3年度の受診率は0.23%で、若い世代から検診していくことが必要である。受診率向上のため、乳幼児健診の際に保育つきの歯周病検診についてチラシを配布してPRしている。
◎その他の質問 がん教育の現状と課題について



Q 鶴ヶ島市運動公園内の
施設管理について

うちの
内野 よしひろ
嘉広 議員

A 適切に維持管理をしていきたい



土砂が堆積したビオトープ

問 水路、ビオトープ、太田ヶ谷沼について。

答 水辺については極力手を入れず、水辺の自然を生かした管理を行っている。なお、水辺のり面に生えた雑草などについては、状況に応じて除草作業を実施している。

問 ビオトープの土砂堆積の対策について。

答 運動公園の開設以来、手を入れてこられなかった部分であり、土砂や落ち葉などの堆積は、課題と考えている。予算の状況を見ながら適切に土砂などを撤去していきたいと考えている。

問 太田ヶ谷の沼の親水デッキについて。

答 現在工事をしているパークセンター側のデッキについては、今年度中に工事を終了する予定である。南側のデッキについては、老朽化などにより危険な箇所が生じており、令和2年度から立入りを規制している。なるべく早く対応するよう時期などを検討していく。

◎その他の質問

一 7月12日短時間記録的大雨と令和元年台風第19号との比較、検証及び今後の豪雨災害対策について

二 農業大学校跡地周辺整備の総合的ビジョンについて



健康遊具



いつまでも健康で いられるまちづくり

いずもびんたろう
出雲敏太郎 議員



健康遊具の更なる設置を 検討したい

- 問** 健康づくりの担い手の育成は。
- 答** 介護予防ボランティアやフレイルサポーターなどを継続して養成し、地域で活動していただいている。今後も新たな担い手の養成に加えて、技術の向上モチベーションの維持につながるよう、各担い手のフォローアップにも努めていく。
- 問** 既存の公園の整備は。
- 答** 体力づくりを行う健康遊具の設置、ラジオ体操やグラウンドゴルフなどが行える多目的広場などの整備を進めてきた。
- 問** 健康遊具を設置してある公園が少ない。羽折公園などの利用率が高い公園について、要望が多いようであれば設置を進めていくべきでは。

- 答** 要望や利用状況などを踏まえて、検討していきたい。
- 問** 若者向けの健康づくりについて、SNSなどを用いてスマートフォンで情報が得やすいように発信していくべきでは。
- 答** これからもより効果的に啓発が行えるよう、様々な方法を検討していきたい。
- ◎その他の質問
- 一 市庁舎大規模漏水の被害状況について
 - 二 子どもたちを有害な紫外線から守るために



西部地域の発展と 今後について

つるしばた
漆畑 和司 議員



より最善の策を講じていきたい

- 問** 西中学校北側信号付近の道路拡幅による状況について。
- 答** 市道9-2号線については、一般県道川越越生線に交差するまでの約110㍎の区間で、令和元年度に北側部分の用地確保を行い、2年度に歩道工事を実施し、南側の既設歩道と合わせ、両側に歩行空間が確保された。
- 問** 一本松地区の区画整理見直



一本松駅

- して住宅が多く建ち開発が進んだが、この状況について。
- 答** 平成22年3月に土地区画整理事業の見直しを行い、土地区画整理事業を継続する区域と地区計画により整備を行う区域とに整備手法を分け、良好な居住環境の形成を図ってきた。
- 問** 新川越越生線（県道）が動き出したが、その状況について。
- 答** 埼玉県では、今年度、国道407号バイパスから新田地区までの区間において、物件調査及び用地買収を実施する予定である。整備主体の県と連携しながら、取組を進めていく。

Q これからの図書館

もちだ
持田 靖明 議員



A 図書館を好きな場所になつていただく

問 図書館の現状について。

答 利用者及び入館者の数は、新型コロナウイルス感染症拡大前の数に戻りつつある。

問 今後は、入館者数を重要視していくのか。

答 中央図書館では、新聞や雑誌の閲覧、資料を見ながら時間を過ごす方が増えている。気軽に集える交流空間を目指し、子ども連れの家族にとっても、図

書館が好きな場所になるよう取り組んでいく。

問 電子図書は増えていくのか。

答 貸出用の電子図書は高額とまっている。今後、普及は見込まれるが、紙と電子の状況を踏まえ、バランスよく考えて、市民ニーズに合った良いものが購入できるよう努力する。

問 ICTタグを利用した図書の貸出し効果について。



鶴ヶ島市中央図書館

Q 介護BCPの状況について

まつお たかひこ
松尾 孝彦 議員



A 完了できるよう支援する

答 図書の貸出手続きが非常に簡便になり、業務の効率化やセキュリティ強化のほか、感染症対策としての利点もある。費用対効果も含めた導入効果について、検討を進めている。

問 図書館分室へ足を運んでもらうための取組は。

答 地域で身軽に立ち寄り、くつろげる空間、気軽に立ち寄って本を手にする、といった環境づくりを考えていきたい。

問 本市における介護BCPの作成状況について。

答 現時点の策定状況は、新型コロナウイルス感染症用の計画は、策定済みが5か所、今年度中に策定予定が10か所、残りの26か所は令和5年度中に策定予定である。自然災害用の計画は、策定済みが4か所、今年度中に策定予定が11か所、残りの26か所は5年度中に策定予定である。

問 今後の取組と課題は。

答 コロナ禍において、介護職員は利用者へのサービス提供のほか、感染防止対策への対応など業務量が増加しているため、BCP策定に職員が関われない



状況にある。国では、新型コロナウイルス感染症用と自然災害用の業務継続ガイドラインを作成するとともに、入所系、訪問系、通所系とサービスの類型ごとに参考ひな型を用意するなど支援している。市では、介護事業者への実地指導などの際に策定状況を確認しつつ、策定期限までに全事業者が完了できるよう支援していく。

◎その他の質問

一 成年年齢引き下げに関連した消費トラブルについて

二 デジタル田園都市構想への対応について



食料自給率の向上、 今こそ

いしづか せつこ
石塚 節子 議員



有機農業の取組面積拡大などの 施策を推進している

問 農業を支える新たな担い手の確保・育成は。

答 新規就農を促進し、埼玉県及びいるま野農業協同組合との連携により、令和3年度までに18人の塾生に支援を行い12人が現在市内で就農している。

問 環境に配慮した新鮮で安全な農産物の促進の現状は。

答 県が認証する「特別栽培農産物」は、農薬と化学肥料の使用量を地域の慣行的な栽培と比べ50%以上減らしたもので、市内では現在7軒の茶農家、3軒のブルーベリー農家で栽培する農産物が受けている。

問 学校給食での鶴ヶ島産農産物の活用と公立保育所の現状は。

答 学校給食センターでは、可能な限り多くの地場産農産物を

使用するよう努めている。この結果、地場産農産物の2年度における使用率は9・6割、3年度の使用率は13・0割となっている。

公立保育所の給食材料は、大半を市内や近隣の事業者から購入しており、野菜の一部は市内の「つるがしま有機の会」から購入している。

問 種も飼料も肥料も外国依存の現状をどう考えるのか。

答 国は、有機農家の取組面積拡大などの施策を推進している。



西中を廃校にする 市長の責任

はせがわ きよし
長谷川 清 議員



良かったと言われる再編にする

問 市の意思決定機関である鶴ヶ島市議会において、一度も議論がなされないまま西中学校廃校の手续が進められているが、この問題に関する決定権限はどこにあるのか。

答 教育委員会に、学校の設置管理及び廃止の方針について決定権があり、最終的には、議会

の議決を経て決定となる。

問 西中を廃校にする根拠は12クラスから18クラスを、学校の適正規模（県内で統廃合した中学校は少数中の少数）としたためであるが、この規模から外れた学校には、どのような課題があるのか。

答 教育委員会の基本的な考え

方としては、統合したときに、学校が大規模になるより小規模の方が教育効果は高く、クラス替えができない状況は好ましくないと考えている。

問 西中が単学級になるまでにはまだ十分な時間があり、保護者、地域、議会においても十分な議論と検討が必要ではないか。

答 今回の計画は、最終的には市長の判断で行って、策定した。これから厳しい社会の中に出ていく中学生に、より良い教育環境で勉強して巣立ってほしいという強い思いで学校再編を行っている。



西中学校

Q

鶴ヶ島の魅力について

おおそねひであき
大曾根英明 議員

A

特徴を生かし、本市の新たな価値を創造していく

特徴について。

問 本市の大きな特徴は、人との利に恵まれたまちと捉えている。

答 人については、地域の中で様々な活動を行う個人や市民団体が多くある。そうした多彩な人と団体に恵まれていることが地域の魅力を高め、本市を特徴づけていると考える。

通勤、通学圏内にあり、3つの鉄道駅を中心に市街地が集約し、コンパクトにまとまっている。また、高速道路による多方面へのアクセスが良好であり、個人や企業にとって交通の利便性の高さは大きな魅力である。さらに、市内にほどよい自然が残りに、住まいと身近な自然が共存した豊かな住環境が広がっている。こうした特徴をまちづくり



鶴ヶ島駅西口

Q

こども家庭庁の創設に向けて

かないずみ ふ き こ
金泉婦貴子 議員

A

国の動向や他市の状況を注視しながら検討する

問 人口変動について。大きく2つの特徴が見られる。総人口については、転出より転入が上回っており、想定よりも減少の幅は少なく、7万人程度で推移している。年齢構成については、老年人口の増加幅が緩やかで、生産年齢人口が増加していることから、想定よりも高齢化率の上昇速度が抑えられている。

問 こども家庭庁の設置の目的について。

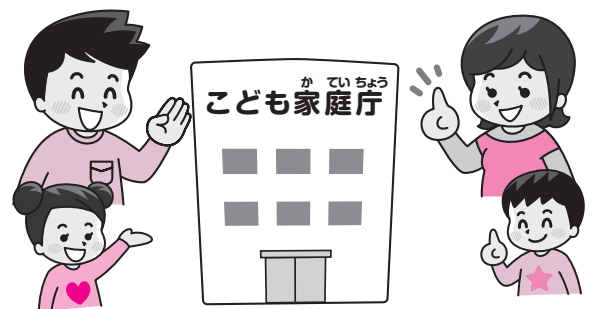
答 子どもに関する取組や政策を社会の真ん中に据えた、「こどもまんなか社会」の実現を目指すための新たな司令塔として設置される。

問 こども基本法について。

答 「こども施策」を社会全体で実施していくための包括的な基本法として制定された。

問 本市の現状について。

答 昨年10月に、要支援児童や要保護児童などへの支援の強化を図るため、子ども家庭総合支援拠点をこども支援課内に開設した。



問 ついて。

答 こども家庭庁の創設により、教育に関する施策がどの様に展開されていくのか、動向を注視していく。

問 本市において、今後取り組むべき事項について。

答 本年6月の児童福祉法及び母子健康法の改正により、市町村が子ども家庭総合支援拠点及び子育て世代包括支援センターを一体化した、「こども家庭センター」の設置に努めることとされ、本市でも検討を開始した。

◎その他の質問 多文化共生の取組について

不登校解消に向けた 取組について

ふじわら
藤原 けんし
建志 議員



A 魅力ある学校づくりで未然防止 に努める

問 不登校児童・生徒の推移について。

答 過去5年間で不登校児童・生徒は、小学校が1・3割、中学校が2・1割、全体で1・5割増加している。

問 不登校の原因把握と対策について。

答 担任、スクールカウンセラー、さわやか相談員などが連携して電話や家庭訪問、面談を実

施し、状況把握に努めている。いじめ・不登校の未然防止のため、生活アンケートやハイパー

QUなどを行っている。

問 不登校解消の実績と対策の効果検証は。

答 関係各課と連携し、本人と保護者の不安に寄り添った支援を行い、本人の心の安定が図られた児童・生徒がいる。

問 中学校卒業後の進路につ



Q 市の人口増政策について

たかはし けんじ
高橋 剣二 議員

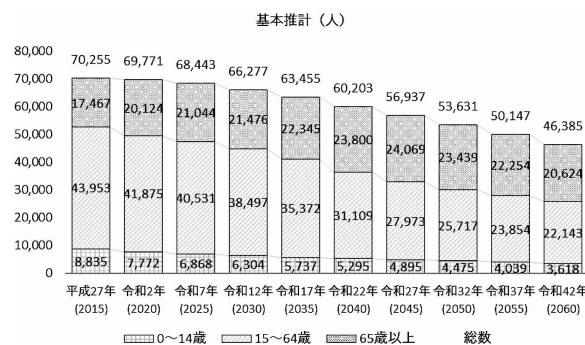


A 若い世代の転入、定住を促進 していく

答 令和3年度の高校への進学率は95割である。

問 不登校解消に取り組む意義について。

答 学校に登校することを目標とせず、自立する力を身につけることが大切である。児童・生徒の実態把握に基づいた組織的・計画的な支援とともに、魅力ある学校づくりを通して不登校の未然防止に努める。



出典：鶴ヶ島市人口ビジョン

問 コロナ禍等が人口に与える影響について。

答 出生数はコロナ禍が始まった2年度では大幅に減少し、3年度は若干回復したものの、コロナ禍前の水準には戻っていない。一方、転入超過の状況が続き、特に生産年齢人口は想定よりも多い。

問 そのため、出生数の減少による自然減の加速が懸念されるが、転入者数の増加による社会増が期待される。

答 重点戦略の進め方は、第6次鶴ヶ島市総合計画後期基本計画の策定で必要な見直しを図り、コロナ禍における地方創生に引き続き取り組む。

問 市への流入人口増のための施策は。

答 少子高齢化の更なる進展と本格的な人口減少社会を見据え、流入人口の増加は最重要課題であると認識している。今後も、幅広い年代の方たちに市の魅力を発信し、流入人口の増加につながるよう取り組む。

問 若い世代へのアピール方法は。

答 今後も魅力ある事業を実施するとともに、若い世代をターゲットにした、より効果的な情報発信に取り組むことで若い世代の転入、定住を促進していく。



令和4年第2回鶴ヶ島市議会臨時会が7月28日(木)に開催され、市長提出議案1件を審議しました。

令和4年第2回鶴ヶ島市議会臨時会審議結果

議案番号	議案の名称	議員名等	審議結果	新政クラブ					大空・つるがしま未来			公明党		日本共産党		賛成	反対・賛成せず				
				持田 靖明	小川 茂	杉田 恭之	高橋 剣二	金泉 婦貴子	藤原 建志	出雲 敏太郎	内野 嘉広	近藤 英基	大曾 根英明	漆畑 和司	山中 基充			松尾 孝彦	小林ひとみ	太田 忠芳	石塚 節子
議案第37号	令和4年度鶴ヶ島市一般会計補正予算(第3号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	17	0

小・中学校校舎体育館の雨漏り等の修繕経費などの補正予算を可決！



令和4年第3回定例会の日程(会期27日間)		
9/1	本会議	開会 議案第38号～第51号を上程
6	本会議	議案第38号、第39号及び第43号を採決 議案第40号～第42号及び第44号～第51号を委員会付託
7	総務産業建設常任委員会	付託議案審査
8	文教厚生常任委員会	付託議案審査
9・12・13	予算決算常任委員会	付託議案審査
20・21・22	本会議	一般質問
27	本会議	議案第40号～第42号及び第44号～第51号を採決 議案第52号を上程及び採決 閉会

令和4年第3回鶴ヶ島市議会定例会が9月1日(木)から27日(火)までの27日間の会期で開催されました。
本定例会では、市長提出議案15件を審議しました。
また、一般質問を3日間にわたり行い、16人の議員が登壇しました。

令和4年第3回鶴ヶ島市議会定例会審議結果

議案 番号	議案の名称	議員名等	審議 結果	新政クラブ					大空・つるがしま未来			公明党		日本共産党		大野 洋子	長谷川 清	賛 成	反対・賛成せず	
				持田 靖明	小川 茂	杉田 恭之	高橋 剣二	金泉 婦貴子	藤原 建志	出雲 敏太郎	内野 嘉広	近藤 英基	大曾 根英明	漆畑 和司	山中 基充					松尾 孝彦
議 案 第38号	固定資産評価審査委員会委員の選任について (鍋島 忠氏)	同意に 決す	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	17	0
議 案 第39号	固定資産評価審査委員会委員の選任について (毛須 征弘氏)	同意に 決す	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	17	0
議 案 第40号	鶴ヶ島市職員の勤務時間、休日及び休暇に関する 条例の一部を改正する条例について	原案 可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	17	0
議 案 第41号	職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する 条例について	原案 可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	17	0

議案 番号	議案の名称	議員名等	審議 結果	新政クラブ					大空・つるがしま未来				公明党		日本共産党		賛成	反対・賛成せず			
				持田 靖明	小川 茂	杉田 恭之	高橋 剣二	金泉 婦貴子	藤原 建志	出雲 敏太郎	内野 嘉広	近藤 英基	大曾 根英明	漆畑 和司	山中 基充	松尾 孝彦			小林 ひとみ	太田 忠芳	石塚 節子
議 案 第42号	鶴ヶ島市手数料条例等の一部を改正する条例について	原案 可決		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	17	0
議 案 第43号	埼玉西部環境保全組合の規約の変更について	原案 可決		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	17	0
議 案 第44号	令和４年度鶴ヶ島市一般会計補正予算(第４号)について	原案 可決		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	17	0
議 案 第45号	令和４年度鶴ヶ島市介護保険特別会計補正予算(第２号)について	原案 可決		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	17	0
議 案 第46号	令和３年度鶴ヶ島市一般会計歳入歳出決算の認定について	認定に 決す		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	×	16	1
議 案 第47号	令和３年度鶴ヶ島市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定に 決す		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	×	×	○	15	2
議 案 第48号	令和３年度鶴ヶ島市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定に 決す		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	×	×	○	15	2
議 案 第49号	令和３年度鶴ヶ島市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定に 決す		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	×	×	○	15	2
議 案 第50号	令和３年度鶴ヶ島市坂戸都市計画事業一本松土地区画整理事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定に 決す		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	17	0
議 案 第51号	令和３年度鶴ヶ島市坂戸都市計画事業若葉駅西口土地区画整理事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定に 決す		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	17	0
議 案 第52号	令和４年度鶴ヶ島市一般会計補正予算(第５号)について	原案 可決		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	17	0

委員会審査

条例

議案第40号
鶴ヶ島市職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例の一部を改正する条例について

職員の育児と仕事の両立を支援するため、育児参加のための休暇の対象期間を拡大するものです。

Q 育児休暇取得への取組は。
A 人事課長 職員向けに子育てガイドブックを作成し、育児支援制度を周知している。



議案第41号
職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について

地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正に伴い、育児休業の取得回数制限の緩和、非常勤職員の子の出生後8週間以内の育児休業の取得要件を緩和するものです。

Q 職員の取得状況は。

A 人事課長 令和3年度は、正規職員が男性2人、女性6人の合計8人、非常勤職員は1人が取得した。

議案第42号
鶴ヶ島市手数料条例等の一部を改正する条例について

長期優良住宅の普及の促進に関する法律等の一部改正に伴い、長期優良住宅維持保全計画の認定の申請に対する審査に係る手数料を追加するものです。

Q 長期優良住宅の申請の状況は。

A 都市計画課主席主幹 3年度は新築で41件の申請があった。



令和4年度の一般会計補正予算1件及び特別会計補正予算1件が可決されました。

一般会計(第4号)

道路長寿命化推進事業

Q 道路長寿命化と通常の道路修繕の違いは。

A 道路建設課長 本市の舗装修繕計画を国の有利な財政措置がある長寿命化事業の対象に位置づけた。

戸籍・住民基本台帳管理事業

Q 簡単窓口システムとは。
A 市民課長 転入、転出及び

転居の手続をする際にタブレット端末に入力することで住民異動届を書かずに済むシステムである。

介護保険特別会計

介護給付費準備基金積立金に要する経費、介護給付費等償還金に要する経費等を補正するものです。



次回定例会のお知らせ

今回の令和4年第4回定例会は、11月24日(木)に開会の予定です。

議会の日程は、開会日の5～2日前に決定し、市のホームページのほか、市役所1階などの議会情報コーナーで御案内します。ホームページはこちらから

<https://www.city.tsurugashima.lg.jp/page/dir000016.html>



鶴ヶ島市議会

検索



令和4年7月15日、夏の全国交通安全運動における街頭指導に参加しました。

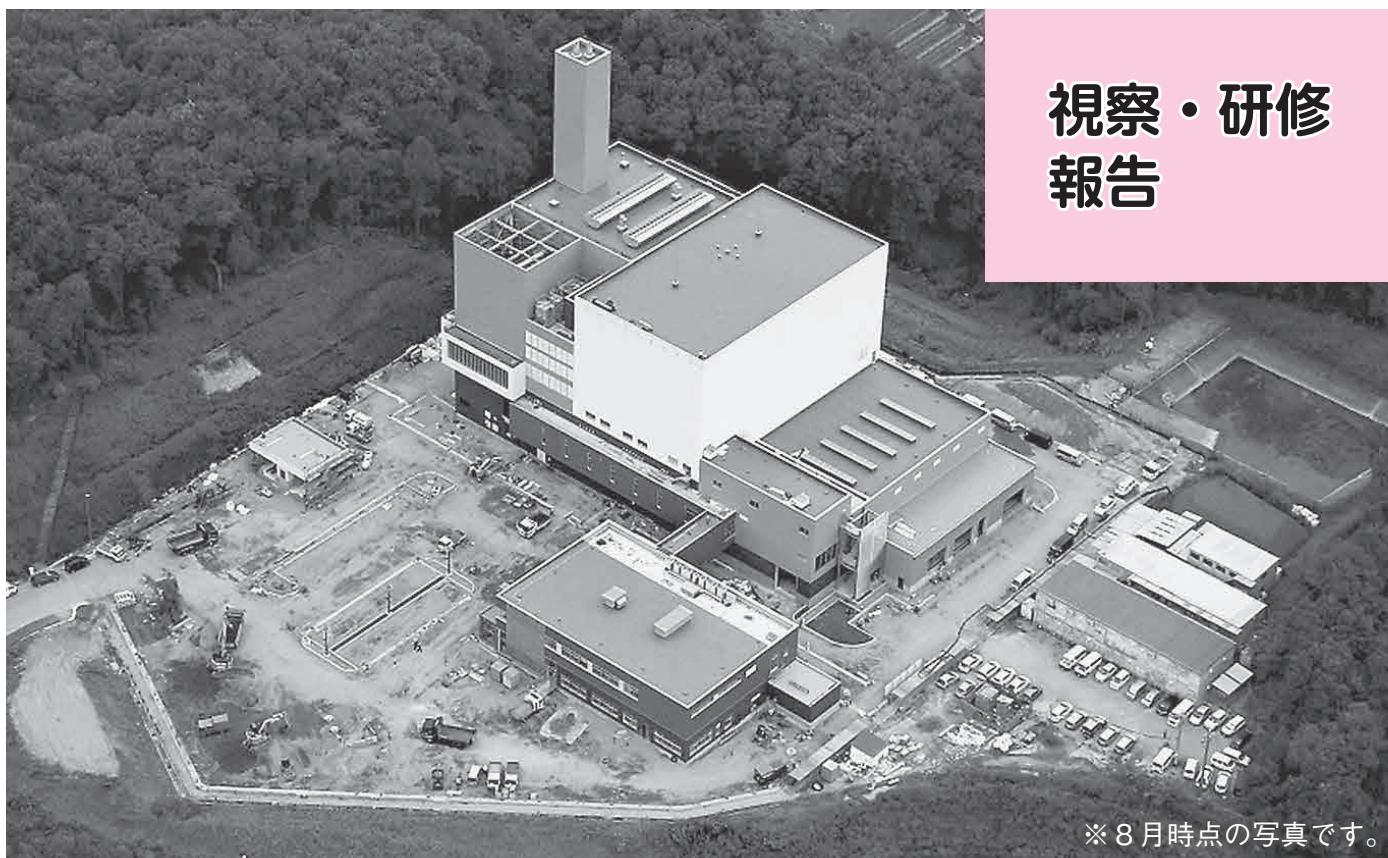
鶴ヶ島市議会交通安全推進議員連盟として

こんな活動もしています



9月29日、秋の全国交通安全運動における街頭指導に参加しました。

視察・研修報告



※8月時点の写真です。

(仮称) 鳩山新ごみ焼却施設を視察

令和4年9月7日に(仮称)鳩山新ごみ焼却施設を視察しました。

平成30年2月から始まった建設も視察した段階では、建物の建設はほぼ終了し、施設内の内装及び外構工事をしていました。

工事責任者の方々から、一日当たり130ト、24時間休まず稼働する等の詳細な仕様の説明を受けました。





市民・団体 インタビュー

鶴ヶ島市赤十字
奉仕団

×

市議会

チャレンジする人を応援する鶴ヶ島に

「赤十字のボランティア活動を通じて地域社会に貢献したい」という思いを持った方々によって結成された鶴ヶ島市赤十字奉仕団。

令和4年8月23日(火)に鶴ヶ島市赤十字奉仕団の皆様インタビューをしました。

応急手当講座の様子

今回取材した鶴ヶ島市赤十字奉仕団のメンバー

委員長	広瀬 桂子
副委員長	中村 伸子
副委員長	嶋田 光代
	落越 道子
	五傳木博美
	岩瀬 園枝
	木幡 艶子



●日頃の活動で思うこと

団員も高齢化してきたので、「できる人ができることを」をモットーに無理なく活動していたらと思っています。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、お祭りなどでの手作り品の販売などの活動が中止となりましたが、自主縫製は続けています。手作り雑巾や足置き台を高齢者・障がい者施設に寄贈しており、今年は幼稚園にも寄贈しました。

毎月、庁舎ロビーで手作り品を販売しています。手作り品の売上げは国内外の災害義援金としています。庁舎ロビーでの販売は、天候に左右されず活動できるので助かっています。

●次世代に赤十字の精神を継承
今回取材した、日本赤十字社埼玉県支部による救急法短期講習会では、中学生6人が受講しました。

「怪我をした人に遭遇したときには、必ず誰かと協力する」という極意から、「飛んでくる蚊をパチッと手でたたいてはダメ」まで、知っていれば自分を守ることもなる軽快な講義と救急法体験は、次世代につながる企画となりました。

最近入団された方は、仕事の合間の時間にボランティア活動をしたいという思いから、自ら進んで社会福祉協議会を訪ねたそうです。

●まちが元気になるために

通学路で擦れ違った児童が、「こんにちは」と挨拶をしてくれたとき。横断歩道の歩行者に気づき車を止めたら、渡り終わったあと、振り返って会釈をしてくれたとき。とても嬉しい気持ちになりました。

挨拶ができるまちは、住みよいまちになるし、自然にコミュニケーションがとれます。

●議員に一言

地域の活動にもっと参加して、見に来てほしいです。顔を合わせれば、話してみようかなとなります。

市民は生活の中で議員が見えています。直接議員が足を運び、声をかけて地域に入っているだけなら市政とのパイプになると思います。

市議会は市民の声を直接聞かれます！

編集 後記

今号の記事は、いかがだったでしょうか。各議員による決算の評価や議会報告会2022など、多くの記事を掲載しました。

今回の議会報告会では、本会場(議場)と三つの市民センターの各会場とをつないだ、対面とオンラインのハイブリッド開催に挑戦しました。不慣れな点も多く、参加者の皆様には、ご迷惑をお掛け致しましたが、沢山のご意見をいただくことができました。

今回の反省点を踏まえ、次に生かしていくと共に、より多くの方からのご意見をいただけるよう、今後の活動に心がけていきたいと思っています。

(持)

(広報広聴委員)

委員長	大野 洋子
副委員長	内野 嘉広
委員	松尾 孝彦
委員	小林 ひとみ
委員	太田 忠芳
委員	石塚 節子
委員	持田 靖明
委員	杉田 恭之